

IT 活用実践事例

中学校
3年/
社会

「ハンバーガーショップの経営者になろう」

～e-黒板を活用した課題解決学習とプレゼンテーション～

実践者:七ヶ浜町立七ヶ浜中学校 白鳥 修

1 学習の概要

キーワード

e-黒板の活用

疑似体験

プレゼンテーション

IT活用のポイント

- ・ 画像により、提示した資料に具体的なイメージを持たせる。
- ・ 説明する場面で、生徒の視点の一致する学習活動を展開する。
- ・ 自分の考えをより効果的に説明するための手段として活用する。

単元名

私たちの生活と経済

単元の目標

経済が社会生活と密接なかかわりを持ち、人間生活の維持・向上にとってかせないものであるといった経済活動の意義を身近な消費生活を通して理解させる。

本時の学習

ハンバーガーショップの経営者になってみよう。

本時の目標

身近なところから、生活と経済の関係、経済活動における選択について考察する。

本時の活用コンテンツ

e-黒板（電子情報ボード）
SMART board software

補助資料

自作資料 ハンバーガーショップの写真
課題プリント

単元計画（5時間扱い）

私たちの生活と経済

- 1 ハンバーガーショップの経営者になってみよう（本時）
 - ・ 身近なことから、生活と経済の関係について考える。
 - ・ 課題解決（出店計画）を通して、経済活動への興味・関心を持つ。
- 2 消費と貯蓄
 - ・ 諸費者が商品選択する場合、選択の原理がはたらくことに気づく。
 - ・ 家計を通して、所得と消費の関係を考察する。
- 3 消費者の権利と保護
 - ・ 消費者の権利と保護について、被害例や対応策を通して考察する。
- 4 流通のしくみ
 - ・ 流通のしくみについて理解する。
- 5 生産のしくみ
 - ・ 株式会社のしくみと役割を通して理解する。

本時の学習（50分）

学習活動

- 1 5つの立地条件を示し、自分はどこに出店するか話し合う。
- 2 班ごとにハンバーガーショップの立地条件について話し合う。
- 3 班ごとに、資料を活用しながら結果を発表する。
- 4 投資家グループの選考結果を発表する。

指導上の留意点

- ・ 5つの条件と同じような立地の実在するハンバーガーショップの写真を提示し、臨場感を持たせる。
- ・ 出店の資金を提供してくれる「投資家」を設定し、自分の班が選択されるように説得力ある説明できるように準備させる。
- ・ 効果的な説明ができるように、e-黒板を活用させる。

2 実践のポイント！

視点の一致

e-黒板を活用し、コンピュータの画面を手軽に提示し、拡大したり書き込むことにより生徒の視点を教師に集中させ授業を進めることができる。作動中はコンピュータを操作する必要がないため、生徒の反応を確認しながら、作業を進めることができる。

その資料の中の注視点を示すことによって、理解を促すことができる。

生徒の実態に合わせ構成を変え

写真や新聞など、デジタルカメラ、ビデオ、スキャナーから手軽に取り入れ、様々な資料を提示することができる。さらに、マーカーや拡大機能进行操作しながら、説明することができる。また、e-黒板の履歴機能を活用すれば、注視するポイントに書き込みを入れた資料を再度提示したり、対比することができる。事象の理解を促すために活用した資料を再度提示し、つまづいたところから振り返ることができる。

プレゼンテーションの利便性

生徒自身も容易に操作することができる。あらかじめ準備した資料の中から選択し、付属のマーカーや指を使い、聞き手にわかりやすい説明を行うことができる。そのため、生徒も説得力のある説明になるように深みのあり、系統性のある考え方や話し合いを行うことができるようになる。



3 子どもたちは？

子どもの姿

- ・ e-黒板を利用し、資料を提示することにより、より臨場感のある問題として課題を捉えることができた。
- ・ 資料を加工しながら提示することにより、大切な課題提示の場面で、通常より集中して聞き取ることができた。
- ・ 積極的に写真や地図資料を活用しながら、効果的な説明を行えるようにプレゼンテーションに取り組んでいた。

子どもの声

- ・ 以前に利用したことのあるハンバーガーショップを見て、具体的なイメージを持つことができた。
- ・ 投資家の指示を得るために、発表を工夫しようとした。
- ・ 教科書の資料に示された条件をきちんと理解することができた。
- ・ 集中して説明を聞くことができた。